

学道一如

発行 小樽双葉高校新聞部
2026年6月25日
第17号

ドリプロでJICAを訪問 海外援助の実際を聞いた

6月11日、2年生のドリプロ、グローバル・カルチャーはJICA（札幌市白石区）を訪問し、青年海外協力隊員の松井理恵子さんの話を聞いた。また、展示物に触れながら、開発途上国の実態、難民の現状、SDGs達成度などを学んだ。3名に感想を聞いた。

栄養指導の壁

田場璃依子（2-1）
青年海外協力隊員として東ティモールで2年間、管理栄養士として活躍した松井理恵子さんのお話を聞いた（左写真）。協力隊員は単に技術的な指導をするだけかと思っていたが、そうではなかった。東ティモールでは栄養指導をする際、その土地の伝統や風習が壁になり、受け入れてもらえない



ことがあったという。正しい知識を持っていても、現地の人にも受けとめてもらうためには工夫が必要だという。SDGsの国別の達成度ランキングのコーナーがあった。（下写真）日本は19位、上位はフィリピン、スウェー



デン、デンマーク、ドイツと北欧、西欧諸国が占める。ちなみに最下位は内戦中の南スーダンだ。その中で、開発途上国が意外に環境の目標を達成していることがわかった。これはそうした国々が環境に負荷をかけない生活をしているからなのだろう。

水を使えない人は21億人

南陽依（2-2）

冬休みにJICAの宿泊イベントに参加したが、その時知ることのできなかったことを今回学ぶことができた。

例えば、安全な水を飲めず、トイレに水を使えない人は世界に21億人いるという。ほかに、電力供給を受けていない人は7億3千万人、大人になっても読

気持ちの伝わる新聞作り

石狩・後志合同新聞研究会

6月12日、札幌市教育文化会館で高文連石狩・後志支部新聞専門部第1回総会・合同研究会が開催された。午前中は総会で各校の活動報告、支部役員、全道大会の役割分担、支部活動について話し合った。午後は上村英生氏（元北海道新聞編集本部委員、上）を講師に「気持ちの伝わる高校新聞作り」と題しての講演、「からだを使って書く作文」のワークショップを行った。約160名の参加があった。



新聞部インスタ効果

石狩、後志支部合同で行われた総会に参加し、他校の高校生

「世界を知る」クイズの展示



み書きのできない人は7億3千9百万人、妊娠・出産で亡くなる女性性は2分に1人、一七

六〇年との気温差は1・55度（上昇）。12人に1人が飢餓に苦しんでいるという。深刻な事実は数字で展示されていた。また、カードを配布され、「赤ちゃんを連れて逃げるの何を持って行くか、10秒で考える」ワーク（下写真）をした。短時間で考えるのは難しかったが避難民になるのを想像できた。



たいと思います。

また、札幌開成高校さんが発表された「支部活動を活発にするために」で我が双葉高校の新聞部のインスタグラムをSNSの使用例として紹介していただき、大変光栄に思いました。（落合優翔、右写真）

オンライン交流今後

前回、冬にオンラインで他の学校の新聞部員、部員との交流を行っ



もてなしの心伝わった

幅田さくら（2-3）



青年海外協力隊員の松井さんが事前に言葉を覚えて、現地に渡り、とけ込んでいたのが印象に残った。ある家庭を訪問し夕食をごちそうになった。

最初に食事を取るよう勧められたが、家族の人数が気になった。1人分を10人で分け合う生活をしてきた。そんな中で松井さんを精一杯もてなそうとする気持ちが伝わったという。また、松井さんがフィリピン



民族衣装を着て、記念写真を撮りました

を旅行して、現地の橋が日本人の技術援助で建設されたという話を聞き、日本を誇りに思えた。世界の民族衣装を着る機会があったのも楽しかった。

たことに対しての振り返りをし、今後も続けることで新たな課題を見つけ、修正することが出来るという話を聞くことができ、やはり続けることは大切だと感じました。他の学校の新聞がどのようなことを記事にしているかを知ることができ、双葉の新聞にも活かせることがあるか考えることができました。そして、自分がどんなことを記事にしたいかをじっくり考えることで、自分を見つめ直し、持っていた考えを更に深めることができました。また、自分と趣味の合う他校の人と話すことができ、個人的な交流もできました。（坂東元、上写真）